

1 研究テーマ

生徒が自分で考え、表現する力を高める授業づくり
～ユニバーサルデザインの視点を取り入れた「わかる・できる」国語科授業～

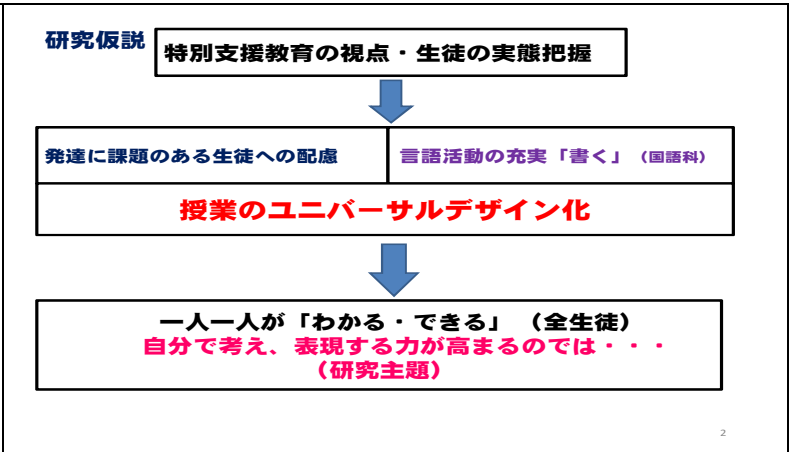
2 はじめに

本研究は、通常学級に在籍する生徒にとって、わかりやすい「ユニバーサルデザイン」の授業を実践し、生徒が自分で考え、表現する力を高めることを目的としている。

「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が平成28年4月1日より施行となった。学校教育においても今後一人一人の障がいの状態や教育的ニーズ（本人と保護者の合意形成の下）に応じて「合理的配慮」を行うことが必要となる。1時間の授業内に教師がどのように発問を焦点化するのか。そして、自分で考え、表現する時間や場の設定、情報伝達の工夫、個別の配慮、共有化などの「授業のユニバーサルデザイン化」を意識した実践を行うことにより、「わかる・できる喜び」を体得し、一人一人の学びが深まるのではないかと考え、以下の仮説を設定した。

3 研究目的

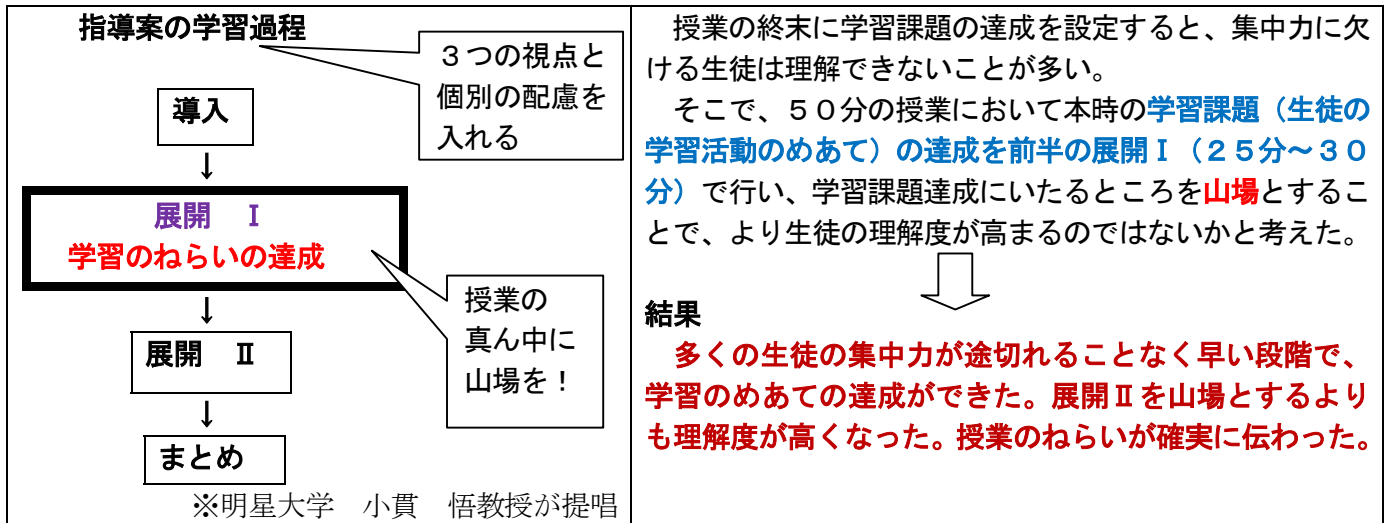
本校生徒の大半はおおむね生活面、学習面共に良好な状態である。しかし、1時間の授業に集中できず、やる気が低下する生徒も若干在籍する。
そこで、国語科におけるユニバーサルデザイン化した授業を実践することにより、発達障がいを含めたすべての生徒にとってわかりやすい授業となり、同時に、言語活動においても自分で考えて表現する力が高まるのではないかと考えた。



4 研究内容

(1) 「授業のユニバーサルデザイン化」の取り組み

○ユニバーサルデザインの視点をふまえた「授業展開」の工夫



○授業をデザインする3つの視点

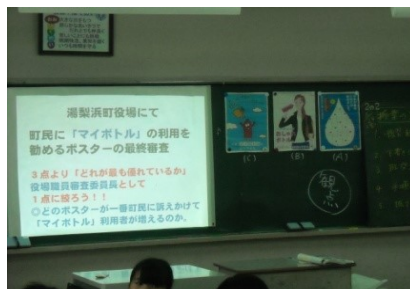
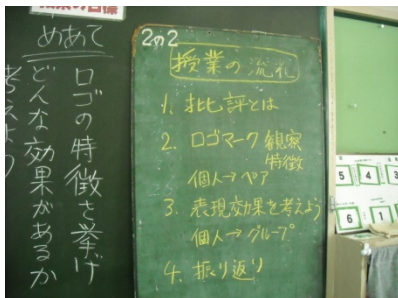
<p>「焦点化」 （シンプル） 授業内容 時間の構造化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業のねらいを1つに絞り、焦点化することで生徒の集中力が高まった。 ・ 活動の流れを生徒に示し、スモールステップで取り組むことで段階的に進捗を確認していくことが可能となった。 ・ 授業で「授業の山場」の設定も明確に提示した。
---	---

<p>「視覚化」 (ビジュアル) 情報伝達の工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ パワーポイントで歴史的な背景を視覚的に提示することで、内容を理解するのに有効となった。 ・ ホワイトボードで簡潔に提示することによって、討議の内容のポイントを絞ることができた。 ・ 「動作化」による「対話劇」の取り組みも主人公の心情を深く捉えることができ生徒の表現力の向上につながった。
<p>「共有化」 (シェア) 参加の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎時間、ペア学習、グループ学習を取り入れた。 ・ 他者との協働を通して、自分の考えを広げ、思考を深めることができた。 ・ グループで話し合ったことは全体に還元し、理解力向上につながった。

(2) 「**支援のための実態把握**」と「**個別の配慮**」について

①教研式NRT②児童生徒の困難の状況確認シート③「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」の別表の3点から分析した。分析より浮かび上がった配慮の必要な生徒に対して、不得意な領域をどのような手立てで向上させていくかを考えていった。具体的手立て「ワークシート、ヒントカードの工夫、グループ学習の活用、オリジナルテキストの活用等」

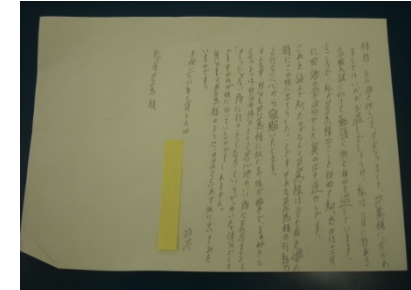
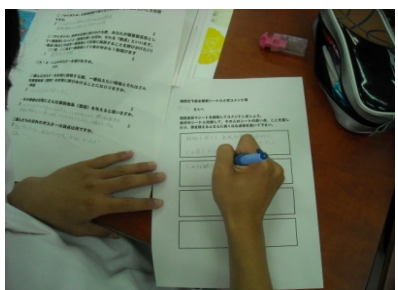
(3) 「**生徒が自分で考え、表現する力を高める授業**」となるために、ユニバーサルデザインの授業化に取り組みながら並行して「**書くこと**」言語活動の**充実**に取り組んだ。



(「**焦点化**」めあてと授業の流れ)

(「**視覚化**」ICT機器の活用)

(「**共有化**」対話的な学習)



(「**個別の配慮**」ヒントカード)

(「**対話劇**」の取り組み)

(「**書く**」芭蕉への手紙文)

◎このような取り組みをすることで、「**生徒が自分で考え、表現する力**」が高まった。

5 研究のまとめ

・ 授業をデザインする3つの要件①「**焦点化 (シンプル)**」、②「**視覚化 (ビジュアル)**」、③「**共有化 (シェア)**」に「**個別の配慮**」を加えて、これらを意識しながら毎時間計画、実践することで「わかる・できる」生徒が以前より増加した。個に応じた対応に心がけることは、他のどの生徒にもわかりやすい授業となった。

・ ペアやグループ学習を効果的に組み込むこと、生徒たちは自分の考えを他者に伝え、他者からコメント、評価、アドバイスをもらうことができた。そして、新しい発見が生まれ、多様な考えにも柔軟に対応できるようになった。**共有・交流しながら学ぶ**ことは、生徒の**思考力や表現力をさらに高める**ことにつながった。

6 今後の課題

・ 年度始めより、全職員で**一人一人の学びの特性に応じた指導・支援のあり方を共通理解**してから授業に臨まねばならない。

・ 授業のユニバーサルデザイン化の考えを元にしながら、「**共有化**」の際に**主体的・対話的で深い学び**を重視した授業づくりについて研究を深めていきたい。

7 おわりに

「**授業のユニバーサルデザイン化**」を**基本**に置き、「共有化」の際に**充実した話し合い活動**を設定し、「**主体的・対話的で深い学び**」を導き出すことが今後の私の研究の方向性となる。